

# 鳩山由紀夫、東シナ海ガス田を中国に大幅割譲

## 故・中川昭一氏が守り抜いた東シナ海ガス田

中川昭一氏は生前、中国に対して特に警戒心を持っていました。日本企業に東シナ海ガス田の試掘を許可するなど、中国への牽制ができる数少ない政治家でした。

中川昭一氏は東シナ海ガス田の大切さと中国の脅威を見極めていたため、東シナ海ガス田の死守に力を尽くしていました。現在の民主党議員と違って、自分の利益ではなく国民のために動いてくれた政治家です。

## 中川昭一氏の努力を無にした鳩山由紀夫

2010年5月31日、鳩山由紀夫と温家宝中国首相の首脳会談は友好ムード演出に腐心し、白樺ガス田(中国名・春暁)などで日本側が事前交渉で大幅な譲歩案を示し、中国が飛びつきました。

民主党政権が示した大幅な譲渡案によって、日本の出資比率は最大で3分の1以下に抑えられる可能性が高くなり、日本にとっては大きすぎる損失となりました。

しかし、鳩山由紀夫は「友愛」という妄言を振りかざして喜んでいるのです。日本のことなど微塵も考えていないのです。



## MSN産経ニュースの記事(2010年6月1日)

<http://sankei.jp.msn.com/politics/policy/100601/plc1006010113005-n1.htm>

【日中首脳会談】成果の裏には大幅譲歩 「白樺」出資は3分の1以下の見通し

31日に行われた鳩山由紀夫首相と温家宝中国首相の首脳会談は友好ムード演出に腐心し、東シナ海ガス田共同開発問題で中国が条約交渉入りに同意するなど成果が並んだ。だが、中国が早期開発を目指す「白樺(しらかば)」ガス田(中国名・春暁)などで日本側が事前交渉で大幅な譲歩案を示し、これに中国側が飛びついたにすぎない。両政府は局長級協議を近く開始する方針だが、日本の出資比率は最大で3分の1以下に抑えられる可能性が高い。

これまでの交渉で、中国側は、先行開発したガス田「白樺」について、5対5の対等条件での開発とした他のガス田と異なり、共同開発の対象外と明確にするように強硬に要求してきた。

白樺は東シナ海ガス田で最大の埋蔵量が見込まれており、中国側はすでに商業都市の上海につなぐパイプラインの敷設を進めているからだ。出資比率などの条件面が有利に進めば、中国側のメリットは大きい。

結局、日本政府は3月に過去の交渉経緯などを精査した上で、白樺と他の共同開発を切り分ける対処方針を決定。これを受け、中国政府は5月上旬に非公式の局長級協議、5月中旬に外相会談に応じるなどじわじわと態度を軟化した。温首相のにこやかな対応は、日本政府の譲歩に対する謝意だと言えなくもない。

外務省幹部は「白樺の出資比率について中国側と合意はない」と説明するが、他の共同開発と「出資」との線引きを明確にしたことにより、交渉は中国側に有利に進む見通しだ。日中関係筋は中国企業2社がすでに開発を手がけていることを挙げ、「日本の出資比率は単独で2社を超えない3分の1以下となるはずだ」との見方を示している。(赤地真志帆)